

第4回福岡県青少年問題協議会専門委員会議 議事要旨

- 1 日 時 令和3年7月30日（金）9：55～11：53
- 2 場 所 福岡県庁10階 行政特別東（行政特9）会議室
- 3 出席者 専門委員8名
〔小泉委員長、大島委員、奥委員、奥田委員、黒田委員、Dickey委員、
西田委員、原田委員〕

4 議事内容

（1）次期青少年プランの意見具申（案）の骨子について

（事務局から、意見具申（案）の骨子の構成について、資料に基づき説明）

【委員】

2ページの「国際化に向けた意識」の「国際化」は、「グローバル化」にしてはどうか。

【事務局】

分かりました。

（事務局から、第1章 計画の概要（案）について、資料に基づき説明）

【委員】

次期プランを予定より1年前倒して策定することについて、どこかで触れた方が分かりやすい。

【事務局】

その方向で検討させていただく。

【委員】

3ページの「（2）柱と基本目標」の（8行目）「チャレンジする青少年を応援する」を「何度でもチャレンジできるよう青少年を応援する」とすると、意味が広がると思う。

【事務局】

検討させていただく。

【委員】

2ページの「第5次プランの検証」の書きぶりとして、検証をした結果、ここに重点的に取り組んでいかなければならない、今回の新しいプランはここが目玉という説明が要るような気がする。

【事務局】

必要なところだと考えており、整理していきたいが、もともと5年間の計画で、5年後を見据えて目標を設定していたところを1年短縮になったことや、コロナで事業が十分できなかったり、全国値がなく全国と比較できなかったりして、令和2年度の評価が十分できないということがあるので、整理が難しい。記載内容は引き続き検討させていただく。

【委員】

結果を書くのは割と客観的に書けるが、結果に係る要因の分析まで入ると、非常に難しいと思うので、結果と指標とを照らして、課題があるところをだけをクローズアップするような書き方になるかと思う。

【委員】

いずれにしても、一貫性のあるものにしないといけないので、よろしくお願いします。

(事務局から、第2章 福岡県の青少年の現状(案)について、資料に基づき説明)

【委員】

16ページの朝食をひとりで食べる割合の図は、前回調査と比較する形で載っているが、前回調査からの変化は読み取りにくい。また、孤食の傾向を取り上げるということは、そこについて何らかの問題がある、その課題についてどう解決しようとしているということが本文部分にどんな形で表れているのか、今日の時点では、よく分からない。

【事務局】

孤食については、前回と比較すると説明が難しいと思うので、前回調査を出すかどうかを含めて、検討させていただきたい。施策としては、生活習慣の習得があるので、どのように整理していくか検討する。

【委員】

19ページでは、社会貢献したいという気持ちは高いけれどもできていないとあるが、社会貢献はボランティア活動だけではないと思いで、表現にもう一工夫いるのではないか。

【委員】

13ページの自殺者数は、厚生労働省と警察庁で数値が違う。どちらを採用するかというのはあるが、数が増えているというよりも、たしか若い人の死亡原因で自殺が1位なので、そちらの方を示してはどうか。

【委員】

4ページの学力と体力の状況の分析のところ、「小学校では上昇傾向にあって、中学校では全国平均を下回る傾向が続いています」ということで、小学校は傾向のことを書いて、中学校は状況を

書いているので、書きぶりを揃えた方が良いと思う。

5ページの不登校のところ、令和元年度の状況だけが書かれているので、傾向についても触れた方が良いと思う。

【委員】

16ページから17ページの生活習慣や時間の過ごし方のところ、または9ページから10ページの情報化社会の進展のところに、スマートフォンの利用時間と睡眠時間、または学力との関係のデータを掲載してはどうか。

【事務局】

スマートフォンの利用時間と睡眠時間、読書時間、学習時間の関係は、県民意識等調査に記載があるので検討する。

【委員】

学力との関係は、東北大学の研究者が仙台市の子どもを対象に調査したデータはあるが、福岡県の調査があるかどうか。

【委員】

多分福岡県ではないと思うが、スマートフォンの利用が睡眠と学力に影響があるというのは明らかなので、これを機に調査してもいいのかなと思う。多分他県では、大々的には調査してないと思う。

【委員】

スマートフォン等は、便利に使えば有用であり、いろいろな使い方ができる一方、SNSやLINE等で問題が起きたりしているので、使う上でのルールや使い方というのが、家庭でも学校でも大事。ただ悪いのであまり使わないようにしましょうというものではない。

【委員】

事前にルールを決めたとしても、子どもに適正利用を身に付けさせるのは簡単ではない。夏休みに学校から配布されたタブレットについても、親が不在の時間に適正利用ができた子どもは少ないのではないかと思う。有用性は高く、今後不可欠なツールになるのは間違いないのだがバランスが難しい。

【委員】

不登校の子どもなどには非常にいいツールの一つにもなっているし、全国の人とつながれるようになったことなど、いろいろ良い面と悪い面がある。

【事務局】

ICT化を進めると弊害が出てくるという現状があるので、適正利用を進めていかなければならないと思う。どう施策に反映していくかというのは考えさせていただきたい。

【委員】

フィルタリングやスクリーンタイム、制限アプリ等の有用性はあると思う。

(事務局から、第3章 施策の方向(案)柱Iについて、資料に基づき説明)

【委員】

2ページの「豊かな心・人権意識」の6行目、「LGBT」という表記について、「LGBTQ」ではないか。

【事務局】

どのような表記にするか非常に悩ましく、LGBTが一般的に使われていると思うので、「性的少数者」の例として「LGBTなど」という表記にしている。

【委員】

私も「Q」を入れた方が良いと感じるが、政府が発表している資料だと、まだQが含まれていないことが多いと思う。

LGBTの人たちも、5行目から6行目の女性、子ども、高齢者、外国人、障害のある人の並びに含まれるのではないのかと思う。LGBTの人たちの問題は既に存在しており、最近深刻化しているというよりも、最近気づき始めているというような感じがある。

【事務局】

新しく顕在化という表現よりも、前段に併記した方が良いということだと思う。検討する。

【委員】

今のLGBTの「Q」に関して、性自認が進んでいない若年層、子どもたちに多いと思う。今回の計画が子どものことなので、そういう意味では「Q」を入れた方が良いと思う。

「被害・加害防止等」の5ページの11行目、暴力団に関して、最近は暴力団よりも半グレと言われる新興の犯罪集団を含むかたちで、「暴力団等の組織犯罪集団」や「暴力団等の」という表現にしてはどうか。

6ページの「キャリア教育」の3行目、「青少年の社会的自立に向け～」の文章に、「自ら主体的に将来について考える」という言葉が入ると良いと思う。

8ページの「不登校・ひきこもり等」の7行目、「大きく舵を切る」という表現について、文部科学省は社会的自立については以前から触れており、今回は「学校に戻すことのみを目的とするのではない」というのが大きな目玉になっているので、言い方を変えないと語弊を招くのではないか。本県では小・中学校の不登校が増加しているので、現在不登校の児童生徒への支援は必要だが、新たに不登校を生まない取組も重要だということを書いておくと、増えている不登校をどうするのかということへの対策もそこに含まれると思う。

【委員】

2ページから3ページの「体験・交流活動」のところに、生活体験や社会体験という言葉も入れていただきたい。

7ページの「ジェンダー平等」のところは、1ポツ目と2ポツ目を入れ替えた方が良いと思う。また、子どもたちが性別に関わりなく希望する生き方を選択して、様々な分野で活躍できるよう、環境、条件を整備していく視点がここでは大事だと感じる。

【委員】

7ページの「ジェンダー平等」の意識調査は、年齢層によって恐らく全然違うのではないかと思うので、調査結果を載せるだけでなく、それを踏まえてどうかというところがあっても良いのではないか。

【委員】

3ページの「インターネット適正利用」では、依存してしまい、医療に頼らざるを得ない子どもたちもいる。そのような子どもたちのケアについて、4ページの「健康教育の推進」のところ、または、柱Ⅲの基本目標1「困難な状況に応じて支援する」のところに盛り込んでどうか。

(事務局から、第3章 施策の方向(案)柱Ⅱについて、資料に基づき説明)

【委員】

9ページの「国際交流」について、要は異文化理解力、対応力を身につける、グローバルコミュニケーション能力が必要だと思う。これは、外国の人と対等にやり取りできる能力のことで、その中の一つが国際交流。ロールモデルとなるような人の講演会や異文化理解のワークショップ等、いろいろな選択肢を与えられるような文章だと、取り組む側もやりやすいし、生徒たちもいろいろ選択肢がある中で、自分の目指したい像というのができていくと思う。国際社会で活躍するには、語学とコミュニケーション能力両方がないと活躍できない。小さい頃からグローバルコミュニケーションを学べる、体験できる機会をつくるような文言を入れてはどうか。

【事務局】

基本目標1「グローバル社会で活躍をめざす青少年を応援する」の施策の方向を、「グローバルコミュニケーション能力の向上」等の文言にし、その中に国際交流やいろいろな体験があるというように整理ができないか検討する。

【委員】

9ページの「外国語能力」について、教育庁に英検の取得した生徒の割合データがあると思うので、そのような能力的データも入れた方が良いと思う。

【委員】

グローバル社会で活躍をするというのが、日本を飛び出て世界に出ることにとどまらない

のではないかと。世界の中の日本というように、今いるここが世界だという感覚・発想で、今いるここでも国際的なこと、世界とつながって、世界の一員として活躍できるというような視点が必要だと思う。

(事務局から、第3章 施策の方向(案)柱Ⅲについて、資料に基づき説明)

【委員】

12ページの「障がいのある青少年」のところ、発達障がいだけでなく、精神障がいを入れなくても良いのか。困難な状況というのは精神障がいも含まれると思う。

15ページの「立ち直り支援」のところ、「青少年と保護者」という表現になっているが、「青少年と家族」にした方が良いのではないかと。

【委員】

15ページの「立ち直り支援」のところ、子どもが立ち直っていくためには、家族はもちろんのこと、例えば、保護司の方もサポートされたりしているので、関係機関や団体との連携等ということも記載した方が良いのではないかと。

【委員】

12ページの「障がいのある青少年」の最後のポツのところ、社会的・経済的に自立するためということに、働く場の確保等の環境も必要と思う。

14ページの「いじめ防止」の3ポツ目のところ、SNS等が介在したいじめは、もう知っている関係の中でSNSを使って攻撃をするので、広域化ではなく、目に見えにくくなるということが課題だと思う。

(事務局から、第3章 施策の方向(案)柱Ⅳについて、資料に基づき説明)

【委員】

17ページの「幼児教育環境の充実」の1ポツ目のところ、課題を訴えるだけになっているので、そのための対応も記載した方が良いのではないかと。

【委員】

19ページの「子育て支援」のところ、安全で安心して過ごせることは最低限のことなので、そこで豊かな体験等の質に関わる表現も入れた方が良く思う。

(全体を通して、質疑応答)

【委員】

子ども、児童生徒等、表記の揺れが見られるので、統一した方が良いと思う。

【委員長】

駆け足の意見交換だったと思うので、改めて御意見があれば事務局に連絡をお願いしたい。